

説教抄

十 私達の父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安とが、皆様お一人お一人の上にありますように。アーメン

福音書は大きく二つに分けることができます。その丁度、分岐点、山で言えば分水嶺とでも呼べる箇所が、今日与えられたペトロの信仰告白の場面です。福音書の前半で、主イエスがなされた数々の教えや御業は、ペトロのこの信仰告白を導くためであったと言っても過言ではありません。そしてこの信仰告白に続いて、主はご自分が十字架に渡され、苦しみを受けるといふ受難予告を初めて弟子たちに明かされていく。つまり、福音書の後半部は主イエスが十字架に向かって真っ直ぐに歩いてゆかれるエルサレムへの道、十字架への道行きが記されているのです。

主イエスは、初めての信仰告白を引き出すこの大切な場面で、その舞台にフィリポ・カイザリアという異邦人の地を選ばれました。領主はヘロデ大王の息子の一人フィリポ。彼は自らの権威を示すかのように自分の名前とローマ皇帝であるカエサルの名前をこの町につけたのです。それだけに風光明媚な場所であり、異教的雰囲気濃厚な土地柄でありました。美しい自然の中に、皇帝崇拝のための神殿、ローマやギリシャの神々が数多祭られていました。加えて、この地方では古くからバアル礼拝が行われていました。旧約聖書の預言者たちが命をかけて闘った相手であります。日本風に言えば正に八百万の神々の町。そしてこの町には国内外から多くの参拝客がやってきて賑やかでした。そこに集う人々は一見、宗教心に富んだ者たちに見えます。しかし、そうではない。宗教心という敬虔な装いの中で、人間の欲望が膨れあがっている。まるで「千と千尋の神隠し」で描かれているように、神を自分の欲望達成の手段の一つとしか考えない、そのような人々の行き交う場所で、主イエスは弟子たちに問うのです。

「人々は、人の子のことを何者だと言っているか?」。

弟子たちは得意になって、自分達が見聞きした人々の風評を伝えます。しかし、主イエスは更に問いを重ねます。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか?」

ペトロの答えは単刀直入。一言で主イエスの本質を言い表すものでした。この言葉をペトロは何気なく語ったものではありません。仕事や家族を抛ち、まだ誰も主イエスに付き従う者のなかった時から従って来た一番弟子です。寝食を共にし、時に叱られながら、溺れそうになって死の恐怖を経験しながら与えられた確信に他なりません。そして、ペトロの告白に対して主イエスは、「あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」と語られるのです。

信仰告白とは、私たちの決意表明ではありません。私が誰を信じるとか、死んでもあなたに従いますとか、そのような自分の思いの強さや意志の固さを表明するのではないのです。むしろ、神さまが私たちの心の中に蒔いて下さったみ言葉が芽を出し、花を咲かせるような形で、私たちの中に形づくられていくものだと言はれるのです。



翻ってみて、ペトロ自身の信仰がどれほど当てにならないものかを私たちは良く知っています。水の上を歩いては沈み、この立派な信仰告白をした直後、「サタンよ引き下がれ」と一喝されたこと、他の誰が裏切っても私だけは裏切らないと豪語したその数時間後に、主イエスを三度も呪いながら否定したのは、他の誰でもないペトロでありました。

信仰告白は二つの方向性を持っています。一つは、信仰の対象である神さまに向かったの告白です。そしてもう一つは、神さまを未だ知らずにいるこの世に対して、隣人に対して、私たちは真の神、生けるキリストを主であると告白していくのです。

先週は休暇を頂いて、娘の結婚式に行ってきました。結婚式で一番大切なのは誓約の言葉です。牧師は新郎新婦にそれぞれ、「病気の時にも、健康な時にも、他の者が見捨てるようなときにもお互いを守りますか?」と問います。そこで大切なのは、「はい。私の決意や努力、愛情の強さによって約束します」と答えるのではないということです。



勿論、その思いは大切です。しかし、ここで答えるのは、「はい。神の助けによって約束します」という言葉なのです。同じように、私たちが信仰を告白するというのはキリストを花婿として、生涯共に歩いていくということに他なりません。そして、それは神の助けなしには出来ないのです。

「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」と主イエスは宣言されました。この「岩」と言う言葉をカトリック教会ではペトロから始まるローマ教皇のことだと考えてきました。一方、宗教改革者たちはイエスをキリストと告白する、この信仰告白こそが教会の基となる岩だと主張してきました。しかし、聖書が証しするのはキリストこそが教会の頭石に他ならないということです。この原文は「あなたはペトロスである、私はこのペトラの上に私の教会を建てる」となります。つまり、「あなたは小石であるペトロ、私は自分自身である岩の上に、私をキリストと告白する一人一人の小石を積み上げて教会を造る」という意味なのです。ペトロの受けた祝福は、彼の完璧さのゆえではなく、主のみ言葉に信頼し一步を踏み出す勇氣の中にあります。大切なのは、信じて一步を踏み出す事です。自分の信じている主の御後に、信じたように生活の只中で従っていくのです。

その時、私たちはペトロのように無様に躓いてしまうかもしれない。それでもいいんです。倒れる回数よりも起き上がる回数を一回だけ多くすること。倒れた私たちに主は何度でもその御手を差し伸べて下さるからです。

恐れる事はないのです。なぜなら、私たちもキリストという岩から取り出された小石「ペトロス」の一人であり、陰府の力さえこれに対抗できないと主イエスが宣言された千歳の岩のひとかけらなのだからです。

十 人知ではどうてい測り知ることの出来ない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るように。アーメン